



ひゅーまんらいつ

第55号 平成17(2005)年6月

ハンセン病を 正しく理解する週間



6月19日から6月25日は、
「ハンセン病を正しく理解する週間」です。

ハンセン病は遺伝する病気ではありません。ノルウェーのアルマウエル・ハンセン医師により発見されたらい菌による慢性細菌性感染症です。

らい菌は、人に対して毒性を持たないため、人の体内に侵入しても発病することはほとんどありません。また、発病しても早期発見と適切な治療により、短期間で後遺症もなく完治する病気です。

3,606人..
19人..?? この数字は何でしょう…。

現在、日本にはハンセン病療養所が15ヶ所あります。そこには3,606人の方が入所しております。そのうち、鳥取県出身の方は19人です。

平成8年「らい予防法」が廃止され、一世紀近く続いた国の隔離政策が終わりました。

それにもかかわらず、多くの元患者の皆さんは、今なお療養所に入所しております。一度故郷に戻られても、社会に残る差別や偏見の壁にはばまれ、再び療養所に戻って来られる方もおられます。

ハンセン病を正しく理解し、偏見や差別を解消し、すべての人が「共に生きる」ことのできる社会を築くために、みんなで行動しましょう。

パネル展開催

期間 6月17日から6月30日まで

場所 ふれあいの里

お問合せ先:「長島と鳥取を結ぶ会」

TEL 0859(53)8955



今月の本棚

「これでわかった!

部落の歴史 私のダイガク講座」

(2004年 解放出版社
上杉 聡 著 2,000円)

豊富な史料集を兼ねた大学での講義記録本。実証的、多面的な史実から浮かび上がる差別の実態が、よくわかります。部落差別についての「なぜ?」の疑問に答える待望の一冊です。差別への反省と、克服しようとする意欲や励ましの書として、きっとあなたのお役に立つことでしょう。



市民向け学習講座

誰でも三 人権談話室 がスタートしました

6月7日、(株)電通関西本部人権啓発課長 岩原和久さんを講師にお迎えし、第1回「誰でも人権談話室」(テーマ：広告と人権)を開催しました。

『楽しい安心』を願って生まれる広告の中で、知らないで強く心を傷つけてしまったり、固定観念で偏見を助長してしまったりした過去の経験を生かして、努力を続ける社内風土…。良い広告を作るためには、社員一人一人の人権学習は絶対にはずせない。「何かをしなければ」とか「結果を出さなければ」と気負わず、肩の力を抜いて自分自身が学び、学んだことを周りに伝えていけばいい。

人権を意識した企業の広告活動に参加者の関心が集まり、和気あいあいとした雰囲気の中、熱心な意見交換…2時間とても盛り上がりました。

次回(第2回)は…

7月19日(火) 19:00~21:00

聖園天使園園長 山田友子さんをお迎えし開催します。

テーマ：「かけがえのないいのちを育む」
(子どもの人権)

(株)電通制作 「人権スローガンポスター」展

好評につき、6月末まで期間延長することになりました。

この機会に、ぜひ各種研修会などで人権情報センターをご利用ください。



部落差別について

《スローガン》

「どこの人?」より

「どんな人」でしょ、お父さん。

(提供：(株)電通 電通人権教育委員会)



米子市人権情報センター(人権政策課内)

URL: <http://yonago-city.jp/jinken/>

米子市東町 161-2 0859-37-3183 Fax0859-37-3184